

【注意事項】

統合開発環境 CS+

概要

統合開発環境 CS+の使用上の注意事項を連絡します。

1. CC-RH および CC-RL 使用時のファイル内スタティック変数およびファイル内スタティック関数のシンボルの情報取得に関する注意事項

1. CC-RH および CC-RL 使用時のファイル内スタティック変数およびファイル内スタティック関数のシンボルの情報取得に関する注意事項

1.1 該当製品

- (1) RL78 ファミリー用 C コンパイラパッケージ (CC-RL) を使用する場合

CS+ for CC 共通部分が V3.00.00~V5.00.00

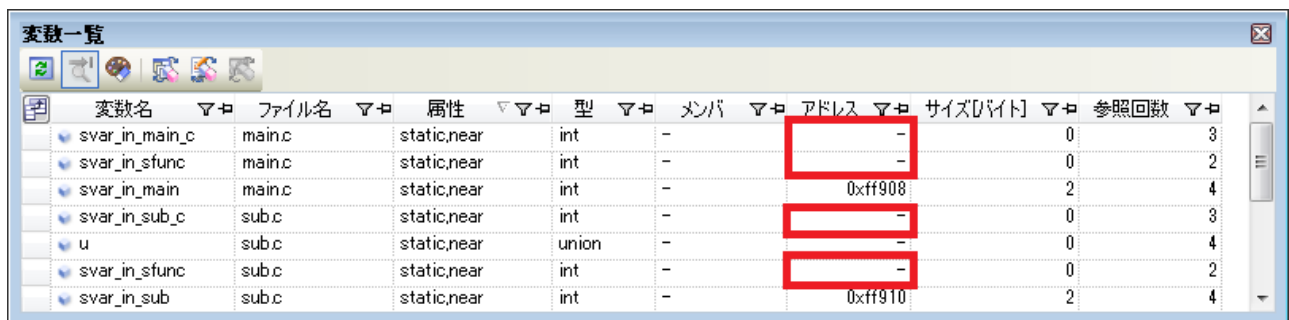
- (2) RH850 ファミリー用 C コンパイラパッケージ (CC-RH) を使用する場合

CS+ for CC 共通部分が V3.00.00~V5.00.00 または CubeSuite+ 共通部分が V2.01.00 以降

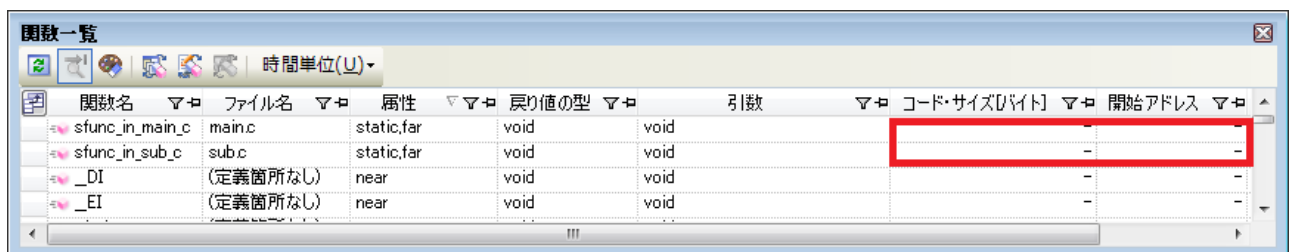
1.2 内容

デバッグ時にファイル内スタティック変数およびファイル内スタティック関数に関するシンボルの情報取得に失敗し、以下のいずれかの現象が発生する場合があります。

- (1) 変数一覧パネルでファイル内スタティック変数のアドレスが表示されず“-”が表示される。



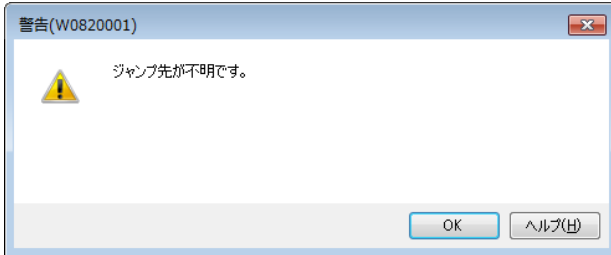
- (2) 関数一覧パネルでファイル内スタティック関数のコード・サイズ、および開始アドレス情報が表示されず“-”が表示される。



- (3) コール・グラフ パネルまたはクラス/メンバ パネルで選択中のファイル内スタティック変数およびファイル内スタティック関数において、以下のいずれかのコンテキストメニューを実行した場合、「W0820001 (ジャンプ先が不明です)」のワーニングメッセージが表示される。

- [逆アセンブルへジャンプ]
- [メモリへジャンプ]

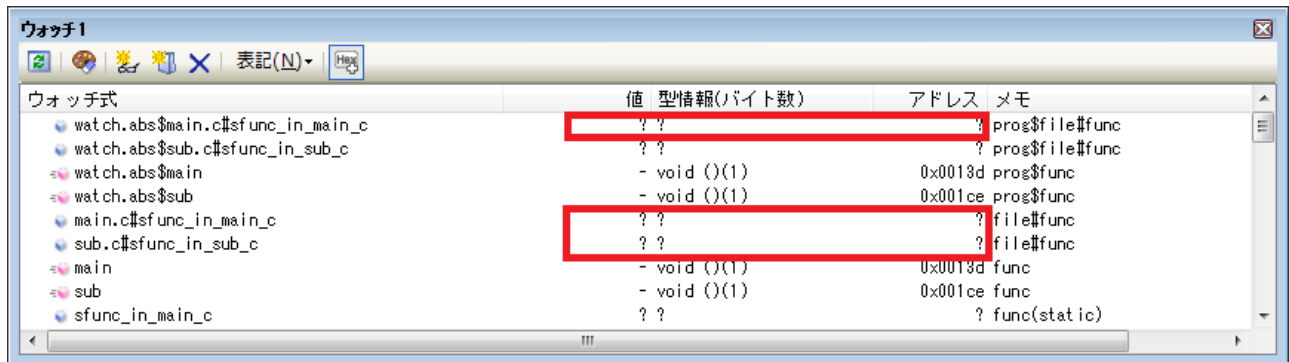
備考：コンテキストメニューは、マウスの右クリックで表示されます。



- (4) デバッグ・ツールの [ダウンロード・ファイル設定]タブにおいて以下の設定を行った場合、プログラムが指定シンボルの位置まで実行されず、CPU リセット直後の位置でブレークします。

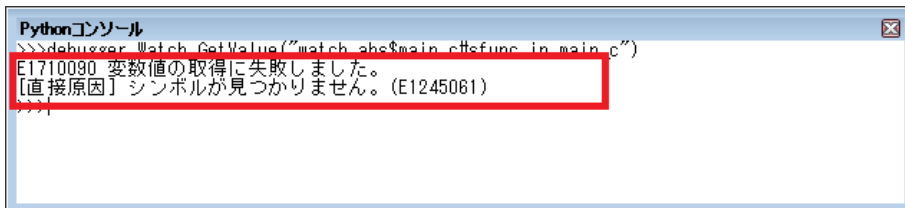
- [ダウンロード後に CPU をリセットする]：はい (デフォルト)
- [CPU リセット後に指定シンボル位置まで実行する]：はい (デフォルト)
- [指定シンボル]：ファイル内スタティック関数を設定

- (5) ウォッチ パネルでファイル内スタティック変数^(注) またはファイル内スタティック関数^(注) の値、型情報、アドレスが表示されず“?”が表示される。



- (6) Python コンソールでファイル内スタティック変数^(注) の参照 (debugger.Watch.GetValue) または設定 (debugger.Watch.SetValue) を行った場合、以下のいずれかのエラーが発生する。

- (a) E1710090 変数値の取得に失敗しました。
[直接原因] シンボルが見つかりません。(E1245061)



(b) E1710090 変数値の取得に失敗しました。

[直接原因] 式が不正です。(E1245064)

```
Pythonコンソール
>>>debugger.Watch.GetValue('watch_abs$main.c#sfunc_in_main.c#svar_in_sfunc')
E1710090 変数値の取得に失敗しました。
[直接原因] 式が不正です。(E1245064)
>>>
```

(c) E1710089 指定された変数が見つかりませんでした。

```
Pythonコンソール
>>>debugger.Watch.SetValue('watch_abs$main.c#sfunc_in_main.c', 100)
E1710089 指定された変数が見つかりませんでした。
>>>
```

注：スコープ指定でソースファイル名を使用している場合のみ該当します。

<例>

- prog\$**file**#func
- **file**#func
- prog\$**file**#func#var
- prog\$**file**#var
- **file**#func#var
- **file**#var

prog：ロード・モジュール名
file：ソースファイル名
 func：関数名
 var：変数名

スコープ指定の詳細については、以下のユーザーズマニュアルをご参照ください。

<https://www.renesas.com/search/keyword-search.html#genre=document&q=r20ut3939>

CS+ 統合開発環境ユーザーズマニュアル RL78 デバッグ・ツール編

A. ウィンドウ・リファレンス

ウォッチ パネル

1.3 発生条件

ソースファイルで `static` 修飾子を使用して変数または関数を宣言している場合に発生する可能性があります。

1.4 回避策

(1) RL78 ファミリ用 C コンパイラパッケージ (CC-RL) を使用する場合

(a)および(b)を実施し、改善しない場合は、(c)も実施してください。

なお、CC-RL V1.03 未満の場合、(c)のみの実施も可能です。

- (a) -vinfo オプションを使用しない。
- (b) 対象のソースファイル内で `__callt` キーワードまたは `#pragma callt` 指令を使用しない。
- (c) `__near` 型の空関数を以下のとおり定義または配置してください。

CC-RL V1.02 以前の場合：ソースファイルの先頭で定義

CC-RL V1.03 以降の場合：`.text` セクションの先頭に配置

`__near` 型の空関数の例：

```
__near void dummy() {}
```

- (2) RH850 ファミリ用 C コンパイラパッケージ (CC-RH) を使用する場合
空関数を以下のとおり定義または配置してください。

CC-RH V1.03 以前の場合：ソースファイルの先頭で定義

CC-RH V1.04 以降の場合：`.text` セクションの先頭に配置

空関数の例：

```
void dummy() {}
```

1.5 恒久対策

CS+ for CC V6.00.00 で改修します。

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2017.3.16	-	新規発行

ルネサスエレクトロニクス株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先

<https://www.renesas.com/contact/>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものです。誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。